

1月の科学あそび分科会

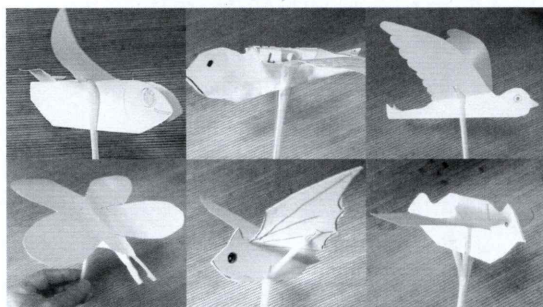
## 身近な材料でエコな工作

1月19日(月) 武藤宅 参加者: 8名

担当: 武藤昌代 報告: 渡部美帆

2026年最初の科学あそび分科会は、会員の武藤昌代さんに、身近なストローや紙コップや画用紙でできる楽しいエコな工作を教えてくださいました。

### 1. はばたくパタパタ鳥



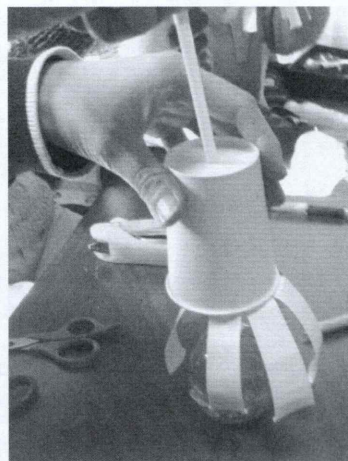
二つ折りにした画用紙の輪を下にして鳥・チョウ・コウモリなどの絵を描き、切り取ります。太いストローの中に細ストローを入れて太ストローの先を割り羽に、また細ストローの先を割ったのは胴体に、ホッチキスでとめます(このとき、細ストローが太ストローより長くなるよう、太ストローを切るなどして長さを調節してください)。片手で太ストローを持ち、もう一方の手で細ストローの下を上下すると羽がパタパタ動きます。花やバッタを作るなどのアイデアも出ました。今回は白画用紙で作りましたが、色画用紙や色を塗るなどして子どもの工夫を引き出せます。

### 2. 紙コップマジックハンド

紙コップ2個(同じ大きさ)とストロー1本だけで、UFOキャッチャーのように箱やテニ

スボールがおもしろいようにつかめます。

紙コップの1つは、側面を8等分にハサミで切り開き外側に全部折り、そのうち対角線上の2つを切り取り6本の手にします。ひっくり返し、底にストローの先を2cmほど2等分して開いたものをホッチキスでとめます。もう片方の紙コップの底面真ん中に、目打ちで穴をあけてストローを差し込み、2つのコップを合体します。

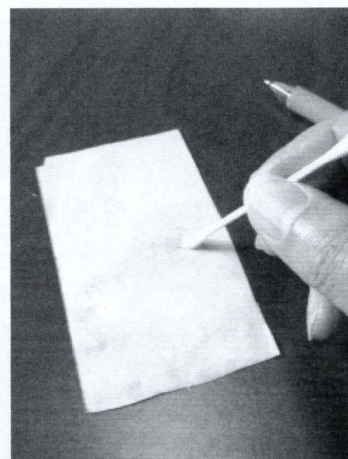


6本の手は少し丸めるといいです。テニスボールの他にも、ガチャポンの丸いケースの中にお菓子を入れてくじ引きのようにして子どもに取れたら持って帰らせる、大玉送りのようにボールを取って次の人に送ってチームで競わせる、というアイデアも出ました。なお、6本の手ではなく8本のままでもちゃんとつかめました。

### 3. 紫イモで染めた画用紙(酸とアルカリのお絵描き)

紫イモパウダーを水で溶かして画用紙を2時間浸しておきます。乾いたら、レモンの絞り汁

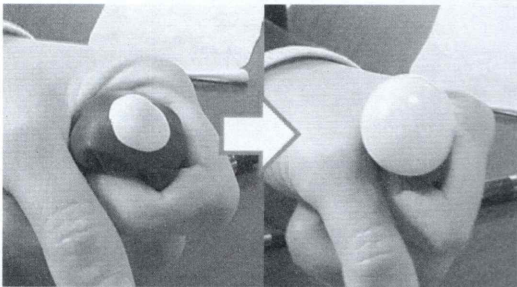
と重曹を溶かした液を用意し、綿棒で絵や文字を書いて楽しみました。赤くなったり、水色になったり、レモンで書いた上に重曹でなぞるとまた、



もとの画用紙の薄紫色にもどったりと何度も楽しめました。画用紙は、100円ショップで売っている品でも水をよく吸うもの、吸わないものがあるのでよく吸うのを選んだ方がいいそうです。綿棒は、どちらの液に浸したかわからなくなるので、どちらかの方の軸に印をつけるなどした方がいいです。

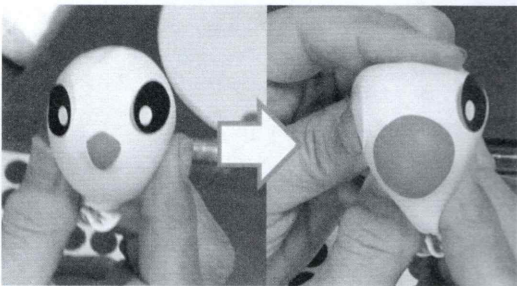
#### 4. 風船デメチャンガエル&アヒルチャン

会員の伊沢尚子さんが考案・紹介された「出目ちゃんガエル」を基にして作りました。アヒルチャンは、武藤さんの講座で子どもが工夫したものだそうです。



デメチャンガエル：目がポヨヨ〜ン

\*写真は黒目を入れていませんが、油性ペンで黒目を入れるとさらにおもしろいです



アヒルチャン：くちばしがポヨヨ〜ン

色の違うゴム風船2個を用意して、外側用の風船に、カエルなら2個、アヒルなら1個の穴を開けます。これにもう一つの風船を入れて、少し膨らませて口を閉じ、ギュッと握ると、穴から下の風船が飛びだして、出目ちゃんやくちばしになり思わず笑ってしまいます。アヒルの目は、黒丸シールと白丸シールです。

子どもたちは色々な発想をするので、ぜひ子どもたちとやってみたいと思いました。

工作をしながら、YouTubeや本などでいろいろな工作が紹介されているけれど細かいことがわからずに取りかかりづらいことや、科学あそびの講座の情報交換もしました。

